

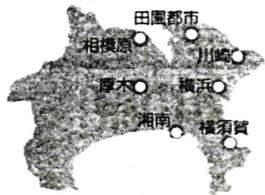
二宮ゼミの活動 読売新聞に掲載

二宮ゼミ(自然共生社会デザイン研究室)の活動が、“読売新聞 神奈川全域の地域欄”に取り上げられました。(2018年6月24日)

デザインによる地域課題解決に期待が寄せられています。

27 地域 横浜 13 S 2018年(平成30年)6月24日(日曜日) 読売新聞 神奈川 版

横浜



横浜支局
〒231-0023 中区山下町51-1
☎045-201-7992 F a x 201-8341
メール yokohama@yomiuri.com

田園都市支局
〒225-0002 青葉区美しが丘5
☎045-904-4341 F a x 904-4356

川崎支局
〒210-0007 川崎区駅前本町12-1
☎044-222-3588 F a x 222-3580

相模原支局 〒252-0231
相模原市中央区相模原4-3-14
☎042-752-0255 F a x 776-2341

厚木支局
〒243-0018 厚木市中町3-15-4
☎046-221-5100

湘南支局
〒248-0033 鎌倉市腰越5-13-33
☎0467-32-6861

横須賀支局

若者との交流を通して高齢者に生きがいを見いだしてもらおうと、県と小田原市は、耕作放棄地となったミカン畑で高齢者と学生が共同作業するプロジェクトを企画した。ミカンを使った新商品の開発も進め、地域活性化につなげる考えだ。

同市では、農家の高齢化や担い手不足が深刻な問題となっている。耕作放棄地となつて、高齢者とミカン畑の草

の大半はミカン畑という。プロジェクトの運営は高齢者に活躍の場を提供する民間団体「シニアネットワークおだわら&あしがら」が担う。同団体はこれまでにも市内でミカン畑の再生に取り組んできたが、県などは今年度から関東学院大学の学生にも参加を呼びかけた。

学生らは授業の一環として、高齢者とミカン畑の草刈りや収穫などに取り組む。畑での作業に加え、学生のアイデアを生かしたジュース、ドレッシングなどの商品開発も行う。最終的には商品の加工・販売にも挑戦し、収益が見込める事業に成長させる。

高齢者の社会参加を推進してきた県総合政策課は、「多世代交流に加えて、耕作放棄地や人手不足の解消も期待できる」としている。

小田原草刈り、収穫商品開発も 高齢者と学生ミカン畑再生

生涯現役



厚生労働省による取り組み「生涯現役促進事業」

全国13自治体のひとつ【シニアが輝くゴールドタウン小田原】のマスコットキャラクター(上・左下)は、小田原市と二宮ゼミの官学連携が縁で、4年生・塚本美帆さんがデザインしました。



【シニアも輝くゴールドタウン小田原】のマスコットキャラクターデザイン



相模湾を臨む小田原市早川地区のミカン畑再生に取り組む「シニアネットワークおだわら&あしがら」のみなさんと二宮ゼミ生